

サムコ (コード 6387)

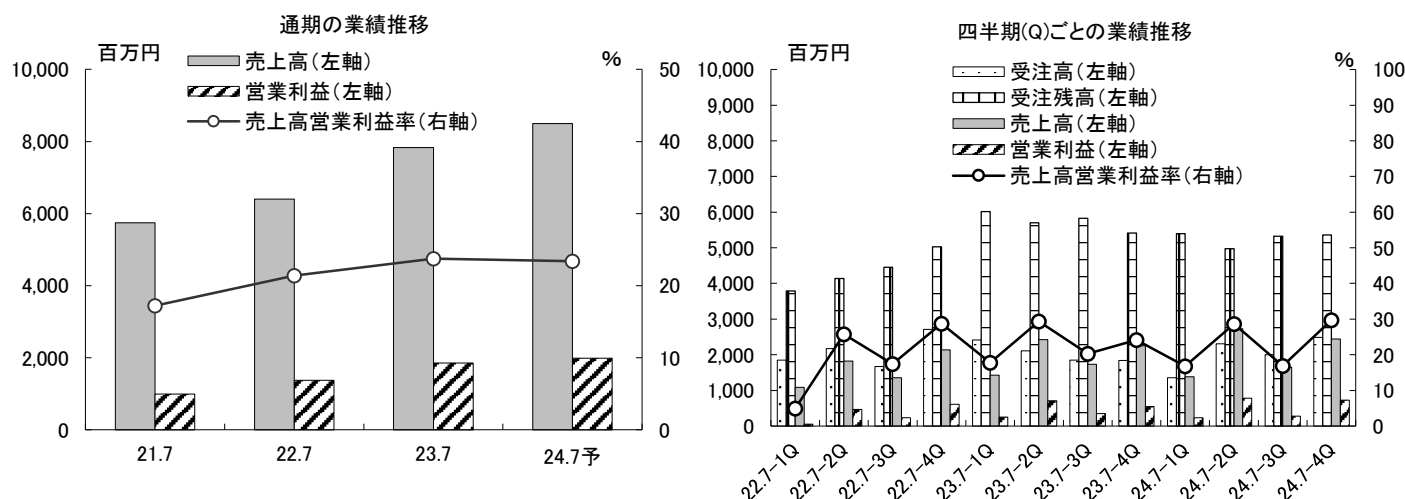
◆通期業績推移(非連結) (25.7 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.7	6,401	1,371	131.1	35.0	1,181	▲214	▲64	3,919
23.7	7,830	1,858	170.1	45.0	▲189	▲75	▲325	3,374
24.7	8,203	2,017	183.3	45.0	1,642	▲292	▲103	4,637
25.7予	9,500	2,220	190.5	45.0	—	—	—	—

◆各決算期の第2四半期業績推移(非連結) (25.7 予は会社側発表値)

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.7	2,911	523	47.5	0.0	▲94	▲3	▲244	2,644
23.7	3,848	964	87.2	0.0	▲1,068	▲64	▲303	2,481
24.7	4,105	1,012	93.0	0.0	722	▲42	▲382	3,681
25.7予	4,300	960	82.2	0.0	—	—	—	—

(CF=キャッシュ・フロー。現金及び現金同等物は期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円)



23年7月期の業績概況…24年7月期の業績は、装置別ではCVD装置やエッチング装置が、用途別では化合物半導体分野が、目的別では研究開発用がそれぞれ好調に推移し、売上高は前年に比べて約5%増、営業利益は約9%増となった。

当期の売上高は82億300万円(23年7月期比4.8%増)、営業利益20億1,700万円(同8.5%増)、経常利益20億8,800万円(同8.4%増)、当期純利益14億7,100万円(同7.7%増)となり、23年9月11日発表の期初予想値(売上高85億円、営業利益19億9,000万円、経常利益20億1,000万円、当期純利益13億7,000万円)を上回った。

売上高について、国内・海外に分けると、国内が44億800万円(同14.3%減)に落ち込んだ一方、海外が37億9,400万円(同41.3%増)に拡大し、海外売上比率も46.3%(前期は34.3%。期初予想43.4%)に上昇。海外の地域別では、アジア29億700万円(同38.2%増)、北米8億2,400万円(同84.8%増)などとなった。装置別の売上高では、CVD装置が16億3,200万円(同25.7%増)、エッチング装置が46億7,100万円(同18.0%増)、洗浄装置が6億500万円(同27.3%減)、部品・メンテナンスが12億9,300万円(同25.7%減)になった。部品・メンテナンスを除く用途別の売上高では、化合物半導体分野が34億3,600万円(同56.0%増)、シリコン半導体分野が11億8,900万円(同14.3%減)、電子部品分野が6億4,000万円(同41.1%

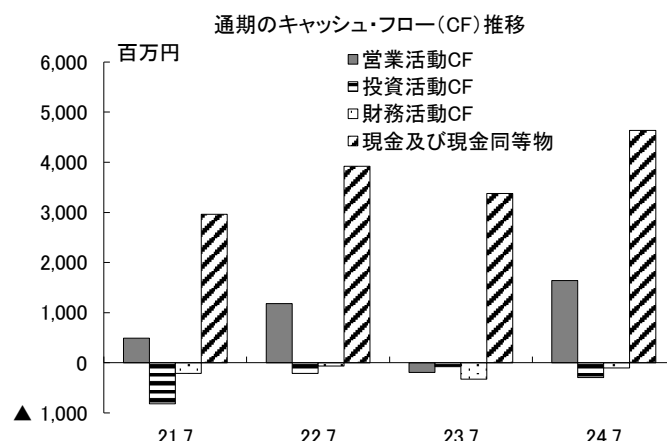
減)、ヘルスケア関連分野が 6,400 万円 (同 54.4%減)、その他が 15 億 7,900 万円 (同 24.3%増) となった。部品・メンテナンスを除く目的別の売上高では、生産用が 28 億 2,100 万円 (同 12.3%減)、研究開発用が 40 億 8,800 万円 (同 42.3%増) となった。

当期の受注高は 81 億 4,700 万円 (同 0.9%減)、当期末の受注残高は 53 億 6,100 万円 (23 年 7 月期末比 1.0%減) となったが、受注高は第 1 四半期 (23 年 8~10 月) に、受注残高は第 2 四半期 (同年 11 月~24 年 1 月) にそれぞれ底を打ち、上昇基調に。装置別の受注高では、CVD 装置が 18 億 3,300 万円 (23 年 7 月期比 41.8%増)、エッチング装置が 47 億 3,600 万円 (同 0.1%減)、洗浄装置が 3 億 8,300 万円 (同 49.3%減)、部品・メンテナンスが 11 億 9,200 万円 (同 16.6%減) に。装置別の受注残高については、CVD 装置が 13 億 4,800 万円 (23 年 7 月期末比 17.5%増)、エッチング装置が 35 億 2,700 万円 (同 1.9%増)、洗浄装置が 1 億 200 万円 (同 68.5%減)、部品・メンテナンスが 3 億 8,300 万円 (同 20.9%減) となった。

装置別について、エッチング装置では半導体レーザー、高周波デバイス、パワーデバイス、LED の加工用途 (以上、化合物半導体分野)、欠陥解析用途 (シリコン半導体分野) の販売が、CVD 装置では半導体レーザーや高周波デバイスの加工用途 (以上、化合物半導体分野) の販売がそれぞれ好調に推移した一方、洗浄装置では国内での大型機の販売が振るわなかった。目的別については、生産用が落ち込んだ一方、研究開発用において、共用設備 (大学や研究機関など)、半導体レーザー、光センサ、量子デバイス、パワーデバイス、バイオセンサ向けなど幅広い投資需要が継続しており、売上を伸ばした。

キャッシュ・フロー (以下、CF) の状況については、当期末の現金及び現金同等物残高は 46 億 3,700 万円 (23 年 7 月期末比 37.4%増) に増加した。営業活動 CF は、税引前当期純利益 20 億 8,800 万円 (23 年 7 月期比 8.4%増)、売上債権の減少額 4 億 2,800 万円 (23 年 7 月期は増加額 10 億 3,800 万円)、棚卸資産の増加額 2 億 4,500 万円 (23 年 7 月期比 63.3%減)、法人税等の支払額 6 億 6,600 万円 (同 57.8%増) などにより、16 億 4,200 万円の収入 (23 年 7 月期は 1 億 8,900 万円の支出) となった。投資活動 CF は、有形固定資産の取得による支出 2 億 5,500 万円 (同 1,316.7%増) などにより、2 億 9,200 万円の支出 (同 289.3%増) に。財務活動 CF は、長短借入金の借入れ及び返済による差引収入額 2 億 6,100 万円 (23 年 7 月期は長期借入金の返済による支出 3,900 万円)、配当金の支払額 3 億 6,100 万円 (23 年 7 月期比 28.5%増) などにより、1 億 300 万円の支出 (同 68.3%減) となった。

25 年 7 月期の業績見通し…25 年 7 月期の通期業績については、用途別で化合物半導体分野が引き続き好調に推移する見込みで、売上高 95 億円 (前期比 15.8%増)、営業利益 22 億 2,000 万円 (同 10.1%増)、経常利益 22 億 4,000 万円 (同 7.2%増)、当期純利益 15 億 3,000 万円 (同 3.9%増) の見通し。1 株当たりの年間配当金は 45 円の予定。



本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。